令和6年度　施設としての自己評価

千代田 おひさまの森保育園

平素は千代田おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容（今年度の重点）		
・愛着についての理解と愛着形成の実践 子どもたち一人ひとりが安心できる相手と愛着を結び、愛着関係における援助や子どもの変化を共有していく	4	愛着関係については、特にmtg時や昼礼の場などを含め学ぶ機会、各クラスの共有を行う時間を多く持つことで、職員の中で愛着についての理解が深まり、個々への理解も深まっていった。そうしたことから担任だけでなく、朝・夕方などクラス外の子どもと関わる際の声掛け・援助の仕方を園全体で意識して行うことができた。特に0歳児の入園当初からの愛着関係の形成の時期を大切に行ったことで、安心できる保育者の存在が生まれ、少しずつその存在が増えていくことで、毎日の中で安心して過ごすことができた。
・子どもの意欲を伸ばす声掛けの検討と実践 自分の声掛けによりどんなきっかけが生まれるのか考え、子どもの主体性を大切にし、発達や個々に合わせた適切な声掛けを行っていく。	3	保育者が発する言葉の選び方により、子どもたちがどのようなきっかけを送ることができるのかを考えることで職員一人ひとりの言葉がけに込められた想いを共有できた。子どもたちが「やってみたい」「こうしたい」という意欲を持った瞬間を大切に、挑戦している時にはじっくりと見守り、関わることができるように、個々の育ち、その時期の意欲についても共有する機会を持ち、連携を大切にしてきた。また、意欲が芽生えた時によりよい援助ができるように個々の機能発達について、職員体制や声掛け等をmtg時にすり合わせを行うようにした。子どもの育ちについて、日々の変化・気づきの発信を大切にしていくことができた。
●施設設備		
・保育室環境について 各学年ごとの育ちに合った環境、その子自身の興味・意欲の発揮できる環境に都度変化させていく。朝・夕方合同で過ごす際の環境についても常に見直しを行い、設定していく	3	mtgの際に、今の子どもたちの育ちについて、またこれからの子どもたちの発達に対してどんな環境が必要か考える場を作った。発達への理解を深め、個々の興味や意欲が十分に発揮できる環境はどうあるべきであるのか、園内のmtgで話し合い、適切な玩具の制作、選定、配置の検討を行った。しかしイメージしたものを形にできたものもあれば、まだ形になっていない途中段階のものもある為、朝夕の合同保育の環境の見直しや職員配置等も都度振り返り、実践を繰り返していくことで、その時々の発達に合わせた環境の提供ができた。
・園周辺環境の活用について 子どもたちの安心・安全に配慮しつつ、危険個所の見直し、散歩ルートの見直しを行うと共に、豊かな自然の環境や地域の良さを最大限活用していく	3	自園の周囲の環境について今一度職員一人ひとりが知り、考え、今の子どもたちの育ちにとっての最善を考えてきた。戸外活動・散歩を行うことで、子どもたちはどんな発見・感動をすることができるのか、事前の想定と共に、振り返りを行うことで、想定と実が繋がった。安全面の点では、避難訓練を行う際に緊急時の対応も共通理解してきた。 戸外活動に出ることで、子どもたちにどんなきっかけをもたらすことのできるのか、何の為に行うのかをすり合わせ、各学年の発達に合わせて各クラスごと活動内容を検討した。園周辺の環境について認識を深めるとともに、安全面にも留意し、戸外での不審者訓練、火災、地震での避難訓練を子どもたちと実施し、都度振り返りを行うことで最善な対応をどの職員も臨機応変に行えるようにした。
●保健・衛生		
・感染症対策について 子どもたちの日々の変化を適切に捉え、保護者との連携を深めていく。 感染症発生防止のため、日々の子どもたちの体調の理解と今すべきことを再確認し、実行していく。	4	子どもたちの体調の変化について、保育者・保護者間でも連携を密に行い、感染症が発生した際には、掲示・口頭のお伝え・メール配信を有効活用し、情報を正確に伝えていった。日常の衛生管理や感染症予防についてmtgを通して学び、状況によって変化させてきた。乳幼児の今だからこそ集団生活の中で過ごす一人ひとりの命を守ることへの意識も高まり、状況に合わせて臨機応変に考え、対応することができた。
●運営		
・行事のありかたについて 行事を行う中で何をもたらすことができるのか意味について考え、一つ一つの行事で得た育ち・感動を丁寧に伝えていく	3	行事について考える時に、職員一人ひとりの想いを出し合い、今までの行事を振り返ると共に、今の子どもたちの育ちに合った行事のあり方を考え、実行してきた。一つひとつの行事にチーム全体で向き合うことで、一つとして同じ行事はなかった。またその時々の育ちについて様々な方法を使い、想いの共有をすることができた。
・保護者との連携体制について 職員間での育ちや感動・発見の共有を徹底して行うことで保護者との連携をより丁寧にしていく。	4	連絡ノートや口頭、写真を通して、保護者にどんなことをどのように伝えていくのが望ましいか、職員間で話し合う機会を設けた。また日々の話し合いにおいて、職員間での共有を徹底することで、担任だけでなく様々な職員が関わることができた。行事やおひさまランチなどの際は、特に子どもたちの育ちを積極的に伝える機会となった。日々の中で保護者の子育てへの想いを聴いたり、一緒によりよい援助を検討することで同じ目線でのサポートに繋がった。
・危機管理について 避難訓練だけでなく、常日頃から災害時についてイメージし、共通理解をすることで、一人ひとりが臨機応変な対応をできるようにする。	3	子どもたちが毎日過ごす環境の中で、安全に過ごせるよう、活動時・午睡時・給食時等様々な場面で起こりうる危険について振り返り、未然に防止できるようにしてきた。一つひとつを何の為に行うのか等もすり合わせを行い、日常で起こりうる危険性やその場合の対処などを共有してきた。園内・園外で起こりうる危険について、気づきを発信し、その都度考える機会にしてきた。

【総評】

平素より園へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。
開園より9年目を迎え、毎日子どもたち・保護者様が笑顔で通ってくださっていることに感謝しております。
本年度は、子どもたち一人ひとりが安心し、友だちや保育者と一緒に過ごす中で、自分を発揮しながら伸び伸びと毎日を過ごすことができるように、個々を丁寧に捉え、職員間での連携を密に行ってきました。更に日々の保育の中から巻き起こった感動や発見について、職員間で想いの共有を行うことで、園全体で一人ひとりの子の変化や育ちについて理解し、それを保護者の方に丁寧に伝え、その子の育ちについて一緒に喜び、時には悩める場面を大切にしてきました。
また千代田おひさまの森保育園を選んで下さった子どもたち・保護者の方・職員が安心できる居場所と感じることのできる雰囲気づくりを徹底してきました。
来年度も個々の育ちを丁寧に捉え、子どもたち一人ひとりが自分らしく日々過ごすことができるように、安心・安全の保育をおこなっていけるように、全職員学びを通して、一層尽力して参ります。
また、子どもたちの育ちを保護者の方と一緒に喜び、未来に期待が持てるようにしていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

令和7年3月1日
園長　長崎和貴